

たちかわ電子図書館の取り組みについて

1 電子図書館サービス導入の経緯

令和2年4月、5月の新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言により、図書館が臨時休館せざるを得なくなり、外出自粛が長引く中、図書館に来館しなくてもスマートフォンやタブレットPCなどから読書を楽しむことができる電子図書館サービスが注目され、国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用し、令和3年1月6日に「たちかわ電子図書館」を開設しました。

2 児童・生徒の利用促進に向けた取り組み

令和3年9月から学校と連携を図り、市内公立学校に通う小中学生全員に「学校用たちかわ電子図書館利用カード」を配布しました。この取り組みは、図書館を子どもたちにより身近な存在として感じてもらえるよう、また、一人一台タブレットPCを活用して児童・生徒が本に触れる機会を増やし、学ぶ意欲や学力向上に結び付けることを目指し始めたものです。それまで小中学生の利用は全利用者の1割程度だったものが、事業を始めた後は8割を占めるようになり、読書離れの抑止に、手軽に読める電子書籍が役立っています。

3 読み放題コンテンツの活用

「朝の読書」の時間や調べ学習で、クラスの児童・生徒が同じ本を読みながら学習することができる読み放題コンテンツ（図書館では令和4年6月に300点購入）を活用し、グループごとに読書感想文を発表するなど、クラス全体で1冊の本を共有した事例が報告されています。自宅でも「家読（うちどく）」として読書活動が習慣化しているなど利用が進んでいます。

4 民間事業者からの費用負担の申出

「たちかわ電子図書館」の大きな特色の一つに民間事業者との連携があり、現在、3事業者から電子書籍コンテンツ代の費用負担をいただいています。民間事業者からさまざまな支援をいただきながら電子書籍コンテンツを充実させ、魅力ある電子図書館づくりを進めています。

5 谷 重治文庫の開設

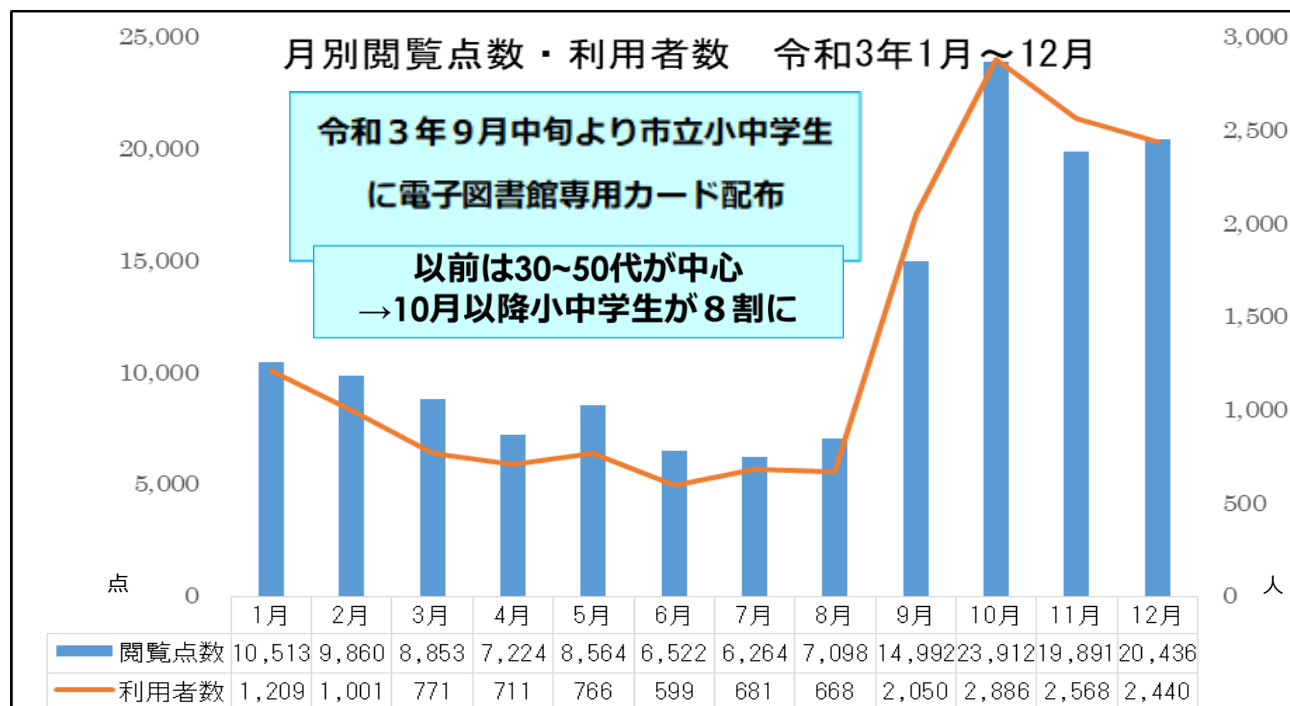
故 谷 重治（たにしげはる）さんより、「立川市の子ども・児童のために公立図書館の児童書購入に役立ててほしい」と寄附をお受けしました。この寄附を活用し、「たちかわ電子図書館」内に絵本等を中心とした「谷 重治文庫」を令和4年12月28日に開設し、子ども達が読書に親しめる環境を整備することとしました。10年計画で紙及び電子書籍を購入し、開設時電子書籍968点、年度内に1,400点揃える予定です。

6 学校連携における今後の展望

電子図書館によって読書や、新しい分野への関心にも繋がっており、これまで図書館まで来なかったような子どもにもアプローチできているように感じます。

小学生時代に読書量が多いほど、中学生や高校生になって授業が楽しく思えたり、新しいことに興味を持ったりする割合が高いという文部科学省の調査結果があります。図書館では児童・生徒が1人1台タブレットPCと電子図書館という新しいツールで本に触れる機会を増やし、学ぶ意欲や学力向上につなげていくことを目指していきます。

たちかわ電子図書館 利用統計（閲覧統計1年目）



たちかわ電子図書館 利用統計（閲覧統計2年目）

